

創世記2 創世記1章2節

「カオスから秩序へ」

イントロ：

1. 創世記1：1～3の解釈

- (1) 創世記1：2の日本語訳を読み比べてみる。

(口語訳)「地は形なく、むなしく、やみが淵のおもてにあり、神の霊が水のおもてをおおっていた」

(新改訳改定3)「地は茫漠として何もなかった。やみが大水の上にあり、神の霊が水の上を動いていた」

(新共同訳)「地は混沌であって、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた」

- (2) 質問：神が創造された世界は、カオス(混沌)なのか。

- (3) これにどう答えるかで、その人の聖書観や世界観が決まってくる。

2. きょうの箇所は、私たちにとってどういう意味があるか。

- (1) 人生の座標軸を持つ必要がある。トータル的な聖書の理解。

- (2) サタン(悪)の存在をどう理解するかが決まる。

- (3) どういう終末論を持つかが決まる。

- (4) いかにかに生きるかが決まる。

① 未信者からクリスチャンへ

② 霊的な幼子から、成長したクリスチャンへ

創世記1章2節は、私たちの聖書観と世界観を規定する。

I. 創世記1：1～3を巡る3つの立場

1. Original Creation View (オリジナル・クリエイション・ビュー)

- (1) 創世記1：1は、創造の6日間の第1日目に含まれる。

- (2) 神は最初にカオスを創造し、そこから秩序ある世界を仕上げていった。

2. Pre-Creation Chaos View (プリ・クリエイション・カオス・ビュー)

- (1) 創造の前から、何らかの理由でカオスが存在していた。

- (2) 創世記の創造記事は、絶対的(無から有)創造ではなく、相対的な創造である。

- (3) 創世記1：1は、天地創造記事の要約か、あるいはイントロダクションである。

- (4) 2節は、神の創造の材料となるものである。
- (5) 3節以降は、具体的な創造の方法を記している。

3. Gap Theory あるいは、Restitution Theory (ギャップ・セオリー)

- (1) 創世記1：1と2の間に、時間的な隔りがある。
- (2) 1節：天地は完璧な状態で創造された。無から有の創造。
- (3) 2節：完璧な天地が、カオスになっている。
 - ①「トーフー・ワ・ボーフー」という3語がカオスを表現している。
 - ②「トーフー」と「ボーフー」が対になって登場するのはイザヤ34：11、エレ4：23。
 - ③ともに、裁きを表している。
 - ④1節と2節の間に、サタンの墮落がある。
 - ⑤長い時間を想定する必要はない。
 - ⑥恐竜の生存をここに入れようとする人がいるが、それは不必要であり、非聖書的。
- (4) 3節以降：神による回復の業

II. 創世記1章2節

1. 1節の最後

- (1) 日本語訳には出てこない。
- (2) マソラ本文には、1節の最後に「ラフィア (休止符)」が打たれている。
 - ①つまり、1節は、独立した叙述文である。
 - ②要約、イントロダクションではない。次に続く文章でもない。

2. 「ワ」という接続詞

- (1) 次に続く文章ではないので、「And」(そして)とは訳せない。
- (2) 「Now」(さて)が正しい訳である。

3. 「地」という名詞

- (1) ヘブル語では動詞が先に来る。名詞(主語)が先に来るのは、新情報を付加するため。
- (2) 「地」の状態を表す動詞は、「ハイエター (ハヤー)」という動詞。
 - ①通常は、「was」(であった)と訳す。
 - ②ここでは、「became」(となった)と訳すべきである。

4. 「トーフー・ワ・ボーフー」という3語

(1) サタンの墮落の結果 (エゼキエル 28 : 11~16)

- ① 神の御座
- ② 地の管理人。宝石の園。海はない。
- ③ サタンの墮落。カオスの出現。

5. 闇という名詞

- (1) カオスを表す言葉。
- (2) 裁き、滅び、絶望、死、サタンとの関連
 - ① 出エジプト 10 : 15、21~23、I サムエル 2 : 9
 - ② エペソ 6 : 12

6. 大水という名詞

- (1) 「テホム」であり、深い淵、深い水を指す。
- (2) 混沌として塩水の淵が、かつて栄光の輝いていた地をおおっている。

7. 神の霊という名詞

- (1) ここから、希望が始まる。
- (2) 三位一体の神の第二位格

8. 動いていた (おおっていた) という動詞

- (1) 「メラヘフェット」という動詞。震える、羽ばたく、宙に舞う。
- (2) 手厚い保護の下に置かれている状態。
- (3) 母鳥が卵を抱き、孵化させようとしている状態。
- (4) マタイ 3 : 16 と関係あり。

9. 水という名詞

- (1) 「マイム」と「ヘホム」とは違う。
- (2) 「マイム」は命を与えるもの。
- (3) 聖霊によって、カオスが秩序あるものに変えられ、命が誕生しようとしている。

結論

- 1. 創世記 1 章 1 節と 2 節の間には、ギャップがある。
 - (1) サタンの墮落
 - (2) 被造の世界に下った裁き

(3) そこからの回復の業

2. 聖書理解と信仰の成長

- (1) 十字架は信じるが、復活は信じがたいという段階。
- (2) 復活は信じるが、再臨は信じがたいという段階。
- (3) 再臨は信じるが、千年王国は信じがたいという段階。
- (4) 千年王国は信じるが、新天新地は信じがたいという段階。
- (5) 新天新地まですべて信じるという段階。

3. 信仰の土台

- (1) 字義通りの解釈
- (2) 再臨の後に出現する千年王国は、アダムの罪によって呪われた被造の世界の回復。
- (3) 千年王国の後に出現する新天新地は、サタンの罪によって呪われた世界の回復。
 - ①黙示録 21：1～22：2
 - ②そこには、海は存在していない。

4. 創世記1章2節は、1節と3節のつなぎである。

- (1) 次回は、3節から学ぶ。
- (2) 「光あれ」ということばには、私たちの人生を変える力がある。